

興讓館歌集

歌集目次

序	1
興讓館高等学校校歌	2
興讓館中学校校歌	6
興讓館高等学校自治会歌	8
凱歌	10
城北護る	12
吾妻山上	14
松岬城	16
聖火は燃ゆる	18
若鷺の歌	20
惜敗の歌	22
栄光への道	24
山岳部歌	26
野球部歌	28
スキー部歌 吾妻下し	28
明日の歴史	29
生きる我等	30
学生讃歌	31
明日に紡ぐ	32

序

若さはそれだけで一つの歌であり、一つの力である。この新しき学園に息吹き躍動する青春の歌と力とは、伝統の深き知恵に貫かれ県南の地にそびゆる殿堂を築くであろう。

思えば今日に至る学園の歩みの中に、青春のいのちを託して綴り唱われたもろもろの歌、それはさながら一つの歴史であり、学園の花である。

ふるき歌、新しき歌、今ここに集めて我等の歌とする。ひとり喜びある時、かなしみある時、そして学友と共にある時高唱しよう。共々に。

校 歌

作詞 浜 田 広 介
作曲 細 谷 一 郎

1. だいてん 大巔の吾妻を見れば

青空にたたなわる

雲白く望みぞそそる

ああ興譲興譲のわれらが胸に

2. わが校の歴史は古く

人あまたあと継ぎて

わざ業につき努めをなせり

ああ興譲興譲のわれらも励め

3. 人みな命をあげめ

わが力わがまこと誠

世のために尽さんこれぞ

ああ興譲興譲のわれらが心

作詞者は本校第22回卒業で児童文学の第一人者である。屋代出身。

興譲館中学校校歌にかわるものとして昭和31年制定されたもの。

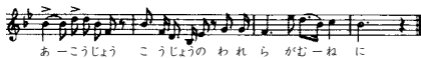
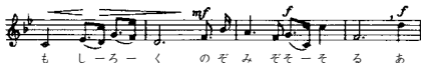
作曲は細谷一郎先生

校 歌

作詞 浜田 広介

作曲 細谷 一郎

明るく希望にみちて(M.M.) = 84前後に)



校 歌

(同声三部)

浜田広介 作詞

細谷一郎 作詞

明るく 希望にみちて(M.M.) = 84 前後に)

ラ ラ ララララ ラ ララ ラ ラ ララララ ラ

ラ ラ ララララ ラ ララ ラ ラ ララララ ラ

ラ ラ ララララ ラ ララ ラ ラ ララララ ラ

だ いてん の あづま をみれば あ

だ いてん の あづま をみれば あ

だ いてん の あづま をみれば あ

お -ぞ-ら-に た た な-は-る く
 お ぞ-ら-に た た な-は-る く
 お ぞら に た た な は る く

も し-ろ-く のぞみ ぞそ-そ る あ
 も しろ く のぞみ ぞそ そ る あ
 も しろ く のぞみ ぞそ そ る あ

あ -こ-う-じ-ょう こうじょうのわれ ら がむ-ね に
 あ -こ-う-じ-ょう こうじょうのわれ ら がむ-ね に
 あ -こ-う-じ-ょう こうじょうのわれ ら がむ ね に

興讓館中学校校歌

作詞 五十嵐 力

作曲 弘 田 龍太郎

1. 盆地米沢狭けれど

山には飯豊、吾妻山

川には松川、鬼面川

前には武道の不識公

後には文道鷹山公

自然に祖先にめぐまれし

この恩寵を忘るるな

興讓中学、興讓中学、学生我等

2. 盆地米沢狭けれど

我等が努力に広がらん

我等が勲に大ならん

足を正義の上に立て

眼は世界の遠きを見

高き理想を望みつつ

不撓不屈に進めかし

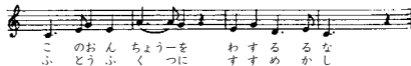
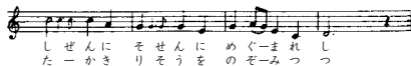
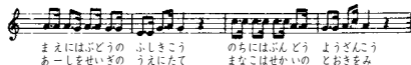
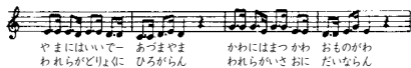
興讓中学、興讓中学、学生我等

作詞者は本校明治20年入学の故五十嵐力博士（早大名誉教授）国文学者として活躍された。作曲は故弘田龍太郎先生（東京音楽学校教授）。制定当時は米沢中学。昭和10年頃興讓中学と改める。

校歌(米沢興譲館中学校)

作詞 五十嵐 力

作曲 弘田 龍太郎



自治会歌

作詞 星 篤 志
作曲 滝 沢 美 恵 子

1. 歴史は遠き建学の

古城趾今は草しげく
我が学び舎の建つところ
自治の叫びも高らかに
自主と信義の殿堂を
築かん我等の米興高

2. 理想の^{ともしび}灯 かざしもち

大志にもゆるる若人が
互^{たがひ}に励む^{さんせい}三星霜
梧葉^{こよう}の影に語りつつ
心の窓を開きては
進めん真理^{まこと}の道標

3. ああ吾妻嶺^おに光満ち

自由の空の明け行けば
カぞみつる新天地
心の郷^{さと}の学園に
希望の調べ奏^{かきな}でて
我が青春を歌わずや

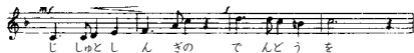
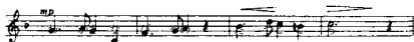
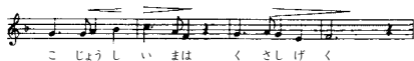
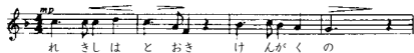
作詞者は本校第60回（昭・25）卒業生。米沢第一高等学校当時（昭・24）の作なので歌詞米一高を米興高と改める。

作曲者は当時（昭・22～昭・29）本校の音楽担当、滝沢美恵子先生。東京在住。

自治会歌

作詞 星 篤 志

作曲 滝 沢 美 恵 子



凱歌

作詞	不	詳
作曲	不	詳

1. 栄えある歴史300年

連綿^{れんめん}つきぬ興讓の

流れをうけし我等なり

などか覇権^{はけん}を渡すべき

2. ああ我れ勝ちぬ我れ勝ちぬ

わくや炎の旗の下

酔える強者^{つわもの}凱歌^{がい}の譜

燦^{さん}たり偉^いたりの我が選手

作詞・作曲者は不詳。興讓館中学校時代から歌われ続けてきたものである。

凱 歌

作詞 不 詳
作曲 不 詳
採譜 三 用 千 秋



は え あ る れ き し さ ん び ゃ く ね ん



れ ん め ん つ き ぬ こ う じ ょ う の



な が れ を う ー け し わ れ ら な り



な ど か は け ん を ー わ た す べ き

城北護る

作詞 不 詳
作曲

城北^{まも}護る興讓の

光を天下に示さんと

米興^{まも}マークの若武者が

今日の晴場に打ち出でて

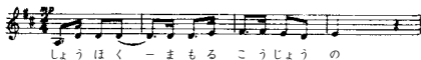
しのめ晴るる明けの空

健児の意気は天をつく

作詞・作曲者は不詳。興讓館中学校時代から歌われてきたもので歌詞の米中を米興と改める。

城北護る

作詞 不詳
作曲 不詳
編曲 三用千秋



吾妻山上

作詞 不詳
原曲 旧一高察歌

1. 吾妻山上雲晴れて

獅子王^{いっく}一吼ものすごく
 荒野^{ころう}に虎狼の影見えず
 地をとどろかすときの声
 松岬城の一角を
 護る健児の意気高し

2. その名を誇る興讓の

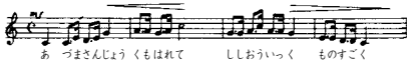
血潮にもゆる^{わこうど}若人が
 さかまく怒濤^{どとう}おしかえす
 かいなの前に何かある
 よろいの袖の一振りに
 凱歌は我に興讓に

作詞者は不明であるが興讓館中学校時代から歌われてきたものである。原曲は矢野勘治作詞、楠正一作曲旧一高察歌。

吾妻山上

作詞 不詳
原曲 旧一高察歌

元気よく、遅くならず



松 岬 城

作詞	不	詳
作曲	不	詳

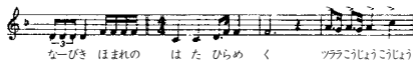
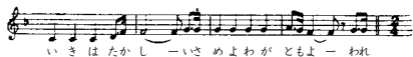
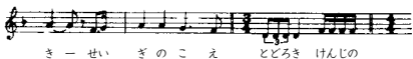
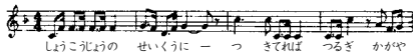
松^{しょう}岬^{こう}城^{じょう}の青空に
 月^て照れば^{つるぎ}劍^{つるぎ}輝き
 正義の声とどろき
 健児の意気は高し
 いさめよ我が友よ
 我等ははや勝てり
 義^ぎ憤^{ふん}の雲なびき
 誉^{ほま}れの旗ひらめく
 ツララ興讓興讓
 ツラララツラララ
 ツララ興讓興讓
 ツララ

作詞・作曲は不明であるが興讓館中学校時代から歌われ続けてきたものである。原曲はエール大（英）サッカーチームの応援歌ともいわれている。

松 岬 城

作詞 不 詳

作曲 不 詳



聖火は燃ゆる

作詞 星 篤 志
作曲 滝 沢 美 恵 子

1. 聖火の燃ゆる原頭に
栄冠めざし紺青の
空紅いに染めぬきて
たたかう選手ぞ米興の
若き血にわくアスリート
2. 希望はやどる若みどり
ひかる大地に身をうちて
おどる力と曲線の
青春の美は米興の
汗にきたえたアスリート
3. 栄冠香る 水しぶき
流れに躍る若鮎の
姿そのまま選手らが
不滅の記録と勝ちどきを
あげる日は来ぬアスリート
4. オリンパスの火 永遠に
平和の裡にもゆるとき
誉れと汗のたたかいに
不断の技とところとを
競うはわれらアスリート

作詞者は本校第60回（昭・25）卒業生。
米沢第一高等学校当時（昭・24）の作なので
歌詞一高を米興と改める。
作曲者は当時本校音楽科担当の滝沢美恵子先生。
東京在住。

聖火は燃ゆる

作詞 星 篤 志
作曲 滝沢美恵子

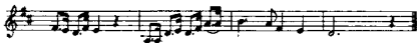
moderato



1. せいかのもゆる けんとうに えいかんめざし こんじょうの
3. えいかんかおる みずしぶき ながれにおどる わかあゆの



そらくれ ないに そめーぬき て たたかうせんしゅぞ
すがたそ のまま せんーしゅら が ふめつのきろくと



よねこうの わかきちにわくー ア スリー ト
からどきを あーげるひはきぬ ア スリー ト



わか わし
若 鷺 の 歌

作詞 川 野 希
作曲 不 詳

1. 南のそら^き気は澄^すみて
 白雲なびく吾妻嶺に
 霸権を懸けて奮い立つ
 カに生くる我が友よ
 永遠にその名を輝やかせ

2. 伝統ここに300年
 常盤^{ときわ}の松の緑濃く
 世紀にはばたく若わしよ
 いざ旗^{もとたか}の下闘わん
 栄冠常に我にあり

作詞者は本校第62回（昭・27）卒業生。米沢在住。

当時の応援歌応募入選作。作曲者不詳。

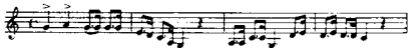
若鷺の歌

作詞 川野 希

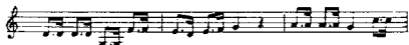
作曲 不 詳

採譜 三用 千秋

力強く ♩ = 100 前後



1 み な のそら きはすみて はくうんな ひく あすまねに
2 でんとう こーこに さんびやくねん ときわのま つの みどりこく



はけんをか けて ふるいたつ ちからにい くる
せいきにはばたく わかわしこ いざはたの もと



わがともよ とー わ にそのな かがやかせ
たたかわん えい か んつねに われにあり



惜敗の歌

作詞 志 摩 健 一
原曲 旧 三 高 寮 歌

1. 赤日いつか地におちて

戦^{たたか}の庭^{うす}薄暮れぬ
栄^{えい}耀^{よう}の夢跡消えて
唯^{ただ}舞う風の名残のみ

2. ああ我が腕^{がいの}力尽き

惜しくも今日はやぶれたり
されども人よ知れよかし
来る秋誓う我が胸を

3. 讃えよ敵の勝ちどきを

我れ楯^{たて}矛^{ほこ}を地に伏せて
勝利の美酒^よに酔いしれし
彼等が歌に和するなり

4. ああうらかなしこの夕べ

雄たけび奮う若武者に
人こそ知らぬ涙あり
人こそ知らぬ涙あり

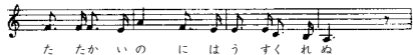
作詞者は本校第62回（昭・27）卒業生。米沢在住。

当時の応援歌応募入選作。曲は旧三高寮歌。

惜敗の歌

作詞 志摩健一

原曲 旧三高寮歌



栄光への道

作詞 安部 英夫
作曲 五十嵐 悟郎

1. たぎる血潮と情熱を
かざす我等の行手には
勝利の道は続きたり
気魂をこめてつき進め
興譲興譲我等が興譲

2. 裂帛^{れっぱく}の意気みなぎりて
たける心を抑えつつ
精鋭^{せいえい}駆ける野はせまし
栄光めざし励みゆけ
興譲興譲我等が興譲

作詞者、作曲者ともに本校第68回（昭・33）卒業生。

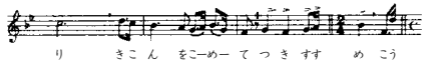
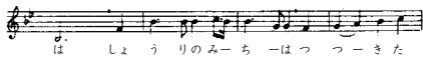
当時の応援歌応募入選作。

栄光への道

作詞 安部 英夫

作曲 五十嵐 悟郎

補筆 三用 千秋



山 岳 部 歌

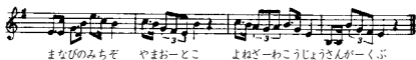
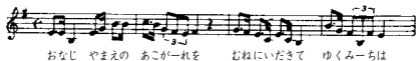
- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 同じ山への憧れを
学びの道ぞ山男 | 胸に抱きて行く道は
米沢興讓山岳部 |
| 2. 人皆花に酔う時も
涙を流す山男 | 残雪越えて山に入り
雪解の水に春を知る |
| 3. 米沢の山は低くとも
岩をよずれば山男 | 夏はアルプスの山が待つ
無我を悟るはこの時ぞ |
| 4. 深山紅葉に片時雨
心なき身の山男 | テント濡して更けて行く
もののおわれを今ぞ知る |
| 5. 町の乙女ら思いつつ
シュテンボーゲン山男 | 尾根の処女雪けたてては
浩然の気はいい難し |
| 6. 同じ学びの道を行く
道は一つぞ山男 | 暎に浮ぶ山の道
米沢興讓山岳部 |

この曲の旋律は広島大学山岳部歌（作詞、足立寛 作曲、神尾一）を元になっている。

現在歌われている本校山岳部歌の作詞者は本校第46回（昭・13）卒業生。元、本校教諭

山岳部の歌

作詞 伊 賀 仁
原曲 広島大学山岳部歌



野球部の歌

作詞 不 詳
作曲

1. 打てや打て 米興の選手
鉄魂^{てつこん}もって思うがままに
大地を摩^まする熱球打て
握らんか霸権^{はけん}の劔^{つるぎ}

2. いざ来たれ 我らが友の
身をばもって守れるところ
死するとも彼等が足の
汚すがままに汚さしめんや

スキー部吾妻下し

作詞 不 詳
作曲

1. 吾妻おろしよ吹くなら吹けよ
山から山へと我は走る
2. 昨日ジャンプで今日またレース
煙りたてつつ我は走る
3. 米興スキー部のマークをつけて
意気と覇気持って我は走る

野球、スキー両部歌の作詞者、作曲者不詳、興讓館中学校時代から歌われてきたものである。歌詞の米中を米興と改める。

明日の歴史

作詞 高 梨 英 吉
作曲 星 寿 次

1. 起きよ我等若人力強く

明日の歴史明日の歴史を築くもの
それは我等の意気それは我等の意気
ああ学生の意気を示めそう

2. 立て我等若人勇氣あふれ

明日の平和明日の平和を築くもの
それは我等の力それは我等の力
ああ学生の力を示そう

3. 進め我等若人理想をかかけ

明日の希望明日の希望を築くもの
それは我等の血潮それは我等の血潮
ああ学生の窓を開こう

作詞者、作曲者ともに本校第66回（昭・31）
卒業生である。
当時の学生歌応募入選作。

生きる我等

作詞 島 貫 幸 子
作曲 伊 藤 喜美子

1. 大志に燃ゆる若人の、緑連なる吾妻山

絶ゆることなき松川に、真理の姿求めつつ

共に歩まん力の限り、希望持てる我等

心と身体を鍛えつつ、

進もう我等は手を取って

2. 未来に生きる若人の、広芒果てなき新世界

澄み渡りたる大宇宙、人生の姿求めつつ

大空かける力のかぎり、生命持てる我等

思索の峰を登りつつ

築こう我等は平和の里を

作詞者、作曲者ともに本校第67回（昭・32）
卒業生である。
当時の学生歌応募入選作。

藩学創設三百年記念歌

「学生讃歌」

作詞 佐藤 温保

（平成五年）

作詞 川島 良博

（昭和二十九年）

一、希望の星を 仰ぎ見て

精鋭集う 学び舎は

不撓不屈の精神を

かざして進む 新世紀

あ、青春のステージは

我らが 興譲

二、大難吾妻を 仰ぎ見て

高き理想を かかげつつ

思索の森に 語り合い

おのがじし道を 求め行く

あ、飛躍のステージは

我らが 興譲



「学生讃歌」

高らかに

き

ぼ うの ほ し 一を あ おぎ み て せ た
 い てん あ づ まを あ おぎ て て

い えい つ ど 一う ま な び や は
 か 一きり そ うを か か げ つ つ

ふ どうふ 一くつ の せ いしんを か ざして 一すすむ
 し さくの 一もりに か たりあい お のがじしみちを

しんせい き あ あ せいしゅ んの ス テー ジ
 もとめゆく あ あ ひやく 一の ス テー ジ

は われら がこ う じょう だ じょう
 は われら がこ う

明日に紡ぐ

作詞 多田綾乃
作曲 鈴木咲笑

1. 緑かがやく 吾妻を見ては
今日の志 胸に抱く

仲間とともに 学びあい
未来への道 歩いて行こう

私たち
伝統受け継ぐ 心ひとつに

2. 真っ赤にもえる 吾妻を見ては
明日へののぞみ 胸に抱く

跡行く君に 希望を灯す
未来への夢 きっと叶えて

私たち
歴史を紡ぐ 心ひとつに

山形県立興譲館高等学校創立130周年記念
祝典歌

「明日に紡ぐ」

作詞 多田 綾乃

作曲 鈴木 咲笑

Moderato

